

論文審査の結果の要旨

氏名：北川 順久

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：組み換え組織プラスミノゲン活性化因子、血管内皮増殖因子阻害薬、および八フッ化プロパンガスの硝子体内注射による黄斑下血腫移動術の研究

審査委員：(主査) 教授 亀井 聡
(副査) 教授 阿部 雅紀 教授 相馬 正義
教授 大島 猛史

本論文は狭義加齢黄斑変性 (nAMD)、ポリープ状脈絡膜血管症(PCV)における黄斑下血腫に対し、硝子体内にアルテプラゼ、ラニビズマブ、八フッ化プロパンを注射することにより、術後 3 か月で矯正視力の有意な回復が得られた事を報告したものである。すでに 20 眼に対する同方法による治療は、学会誌 (Kitagawa Y, Shimada H, Mori R, Tanaka K, Yuzawa M: Intravitreal Tissue Plasminogen Activator, Ranibizumab, and Gas Injection for Submacular Hemorrhage in Polypoidal Choroidal Vasculopathy. *Ophthalmology* 123:1278-86, 2016)に発表済みであり、本論文では 42 眼に症例数を増やし、その効果を証明したものである。42 眼における結果は、平均矯正小数視力は術前 0.324 から術後 3 か月で 0.509 へ有意に改善し、中心窩網膜厚および中心窩網膜色素上皮剥離厚は、ともに術前と比較し術後 3 か月で有意に減少し改善を示した。一方、眼内炎や全身血栓などの重篤な合併症や組み換え組織プラスミノゲン活性化因子の網膜毒性による網膜萎縮はみられなかった。以上より、nAMD、PCV における黄斑下血腫に対する組み換え組織プラスミノゲン活性化因子、血管内皮増殖因子阻害薬、八フッ化プロパンガスの硝子体内注射による黄斑下血腫移動術は臨床上有用で、かつ安全な治療法であると結論している。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 29 年 2 月 22 日